

第9回 古賀市生涯学習笑顔のつどい

～パネルディスカッション～

公民館を子どもたちの 第三の居場所に



2025. 1. 19 日

10:00～12:10
(9:30～受付)

リーパスプラザこが
交流館2F 多目的ホール



主催:古賀市・古賀市教育委員会
主管:古賀市社会教育委員の会議



「生涯学習笑顔のつどい」がめざすもの

生涯学習活動に携わっているさまざまな人や団体が集い、それぞれの活動が交流し合うことを、そして参加者の皆さんが笑顔になれることをめざして開催しております。

第9回となる今年のテーマは、「公民館を子どもたちの第三の居場所に」です。学校や家庭以外で子どもたちの活動の場として公民館が考えられないか、また、その支援の在り方等について、参加された皆さんと意見交換を行いたいと考えています。

本日のプログラム

◆10:00～12:10

	内容
1	オープニング映像「みんなの笑顔」
2	開会のことば 古賀市教育長 長谷川 清孝
3	市長あいさつ 古賀市長 田辺 一城
4	パネルディスカッション ★テーマ :「公民館を子どもたちの第三の居場所に」 ★パネリスト:花鶴丘 3 丁目区 子育てサロン ちいさかーさ 久保西チャレンジ教室
5	閉会のことば 古賀市社会教育委員の会議長 井浦 政義

問題提起

古賀市の子どもたちは、夏休みなどの長期休暇期間に加え、1日の授業時間数の短縮により、自由な時間が増加しています。

行政主導により、市内の3つの中学校区にそれぞれ1か所ずつ「児童センター」が開所され、18歳までの子どもたちが利用しています。

また、「学童保育所」「子どもアート教室」以外にも、「放課後子ども教室」「寺子屋」「通学合宿」などが地域において実施されています。

この他にも、スポーツ・文化団体による活動の場や、NPO による「子ども食堂」などがあります。しかし、地域コミュニティに接しながら育つ機会は子どもの住む場所で地域差が見られます。

このような中、社会教育委員の会議では、家庭に身近な自治公民館に焦点を当てました。それぞれに課題を抱えておられると思い、今回のテーマを「公民館を子どもたちの第三の居場所に」と設定いたしました。

本日は、どのようにしたら、子どもたちが地域の中で安全・安心に生活を知り、想像力を育めるのか、また、どのようにしたら、子どもたちの声が聞こえる地域の居場所としての公民館が作れるか、課題を含め皆様と考えたいと思っています。

花鶴丘3丁目区



花鶴丘3丁目区は自治会ができ 54 年、高齢化率47%、15歳未満の割合は10%の地域です。現在、育成会及び PTCA の活動は休止の状態です。空き家となった更地には、最近、2戸の住宅が完成し、新たに若い世代が入居されています。

地域の活性化には世代間交流、子育て支援が重要になっており、これらの活動として自治会、福祉会、あすなろ文庫等団体が様々な活動を実施しています。

子育てサロン ちいさかーさ



子育てサロンちいさかーさでは、庄北区と庄南区の公民館が隣り合わせに建っていることもあり、二つの区が合同で「子育てサロン」や「みんなの食堂」を行っています。

「子育てサロン」は月に1回、「みんなの食堂」は長期休みを利用して行っています。

有志あるスタッフの集まりです。

どなたでもいらしてください。

お待ちしております！

久保西チャレンジ教室



誰もが住みやすく暮らしやすいまちづくりは、多くの方々の地域参加が大切です。

チャレンジ教室では、年間通して開催する色々な活動を通して、ご近所どうしが繋がるきっかけづくりを行っています。

そして多くの方々が地域に顔を出し協力することで、安心して暮らしやすい、また大人も子どもも顔の見える関係づくり、環境づくりを目的に活動しています。

【発表①】

「花鶴丘3丁目の公民館活動」

・花鶴丘3丁目区の概要

花鶴丘3丁目は昭和40年代から造成、50年代初めから入居開始しました。人口は平成元年が最大1,700人、現在令和6年3月末で1,300人です。高齢化率47%市内で3番目、15歳未満10%です。区及び分館活動団体には活動資金の援助がありますが、その他の団体には活動援助はありません。公民館を利用して活動している団体です。

・6月組対抗シャッフルボード大会

小学生からお年寄りまで30チームが参加、今年が多文化共生・国際交流を兼ねて外国人2チーム参加しました。幼児用に輪投げ等のゲームも用意しています。

・8月夕涼み会

中学生にテント準備・解体・じゃんけん大会・アイスの販売等のお手伝いをお願いし、多くの学生に参加していただきました。

また、先生・生徒が踊りの練習日に来られ古賀音頭他の指導を頂き、当日は中学生も多く参加されました。

・10月文化祭

区民の趣味・書道教室の子どもたちの作品を多数展示しました。古賀中吹奏楽部ミニコンサートを開催、終了後公民館内で区民と交流ができました。あすなろ文庫に抹茶・コーヒーと和菓子の提供を頂き交流ができました。

・11月古賀中地域ボランティア

4号公園の清掃終了後公民館で交流会を行いました。4号公園は夕方、多くの小中学生がバスケット、サッカーを楽しんでいます。

・2月ウォーキング大会

3コースで幼稚園児から高齢者まで、完歩後公民館で食事を提供します。

・見守り・防犯パトロール実施

パトロール隊は毎週、その他は毎日実施、ついでにごみ拾いを行います。

これまで家に帰れない地域外の高齢者、幼児を発見・連絡又は自宅まで同行しました。

・福祉会の活動紹介

12月クリスマス会をあすなろ文庫と共催して実施しています。

・あすなろ文庫の活動紹介

図書館に作品展示しています。夕涼み会開催前にお話会、見守り（月曜日）、お話会（8月学習会）10月健康測定会（歯の話）について紙芝居を行いました。

・ヘルス・ステーションの紹介

母と子どもの健康測定会や、育成会の休止・コロナで近年は実施してないが、過去には健康測定会、清涼飲料水の糖分量、カップ麺の汁の塩分量を比較。10/26看護大の指導を得て尿のナトリウムとカゴメのベジチェック機器で野菜の摂取量が分かります。

以前実施した咀嚼力の比較、ガムを所定の回数噛み咀嚼力を子どもと大人を比較、歯科医師による出前講座を開催しました。

【発表②】

「子育てサロンちいさかーさ みんなの食堂」

・団体自己紹介

私たち『ちいさかーさ』は、庄北区と庄南区の公民館が隣り合わせに建っていることもあり、二つの区が合同で『子育てサロン』や誰でも来れる『みんなの食堂』を長期休みに行っています。

・活動のきっかけ

子育て世代が、孤独な子育てにならないよう、親同士が繋がる居場所を作りたいと2018年に「子育てサロン」から活動をスタートしました。また、公民館が常時、閉まっていた、若い世代が公民館を利用することがなく自治会離れが、更に進むのではと危機感を感じたのも活動を始めたきっかけになっています。

・活動の目的

子育てをしている親同士が子どもを通して地域にかかわれる場を作ることで、地域に住んでいる若い世代がつながり、地域住民同士で子育ての輪が広がることと、地域で、社会で子どもを育てていく地域づくりを目的にしています。

・公民館を活動の場とした理由

今の庄の中で地域とつながる居場所を作りたいだったので地域にある公民館を使うことにしました。また、気軽に公民館を使うことで、自治会の役割や加入のメリットを若い世代に感じてもらいたいと思ったからです。

・活動のPR方法

地域の回覧板、子育て情報誌、小学校でのチラシ配布、ポスター掲示、SNSなどで最終的には親同士の口コミで広がっています。

・活動の実際

『子育てサロン』を毎月1回 第1土曜日に実施しています。『みんなの食堂』は、夏休み、冬休みなど給食のない長期休み中に実施しています。昨年度は春休みに8回、夏休みに8回、冬休みに4回の計20回実施できました。

・地域、仲間の協力体制

経費については、庄北区、南区の両区から毎年一定額を協力してもらってます。スタッフは総勢13

名が活動にかかわっています。今年度から公民館2階で、夏休み子ども広場を実施し、古賀東小の子ども広場スタッフも関わってくれました。その他の協力として、事業所が子どもたちに綿菓子をつまってくれたり、コスモス広場、フードバンク、地域の方などの様々な寄付など多くの人の協力での活動を続けることができています。

・活動時の子どもたちの姿

子育てサロンは、就学前の親子が、ノンプログラムで自由に、和やかに過ごし、子どもたちは楽しそうに走り回っています。みんなの食堂は、長期休み中に実施するので子どもたちは、友だちと会えて嬉しそうです。公民館前の公園や2階で汗だくで遊ぶ子、宿題を友だちとする子、食堂の調理をやりたい子など、それぞれが自由に過ごしています。

・感じたこと

学校や家でもない居場所で、1人ではない時間を友だちとのんびり過ごす子どもたち。そして、その子どもたちを温かく見守る地域の大人がいます。活動を続けてきた中で大変だったことは、コロナ禍で開催するか判断や区長とのやり取り、衛生面での工夫など、そして、『みんなの食堂』の調理スタッフが少ない時など様々、大変なこともあります。子どもたちが「おいしかったー」と言ってくれるだけで、こちらも嬉しくなります。子どもたちの笑顔がこの活動を続けていく原動力になっているかもしれません。

・今日の会場参加者への応援メッセージ

PTCAや育成会の衰退など、子育て世代がつながりにくい時代になっています。そして、自治会への若い世代の加入も減り続け、地域でのつながりもますます作りにくくなっています。

子育て世代が孤立した子育てにならないよう、各地域にある公民館が、開かれ、あちこちにハシゴできるくらい子どもの居場所が、古賀市内に広がってくるといいなと思います。

私たちが『ちいさかーさ』を立ち上げるとき、他の団体の活動を見学に行きました。その時に「とりあえずやってみて」の一言に背中を押されました。皆さんの地域でもできることからとりあえずやってみませんか？

【発表③】

「久保西チャレンジ教室

～自治会あってよかったなあと

思えるために～」

・久保西区の概要

隣組は10組・世帯数400世帯・自治会加入世帯312世帯・自治会加入率78%となっています。組によっては、自治会加入率が63%まで下がっているところもあり、高齢者・若い人たちの自治会離れが進んでいます。

・令和6年度久保西区自治会方針・計画について

昨年の有志の皆さんの思い・意見を踏まえ、自治会活動の維持発展のために、個々の違いを認め合い、相手の立場に寄り添い、ともに「暮らし」と「地域」を考え、自治会活動の維持・発展のために自治会活動の負担軽減を図り、若い人々も参加しやすい実験的活動にチャレンジするという基本方針を総会に提案しました。

具体的計画として自治会活動の負担軽減のために、役員体制の縮小（文化部廃止）に取り組み、自主的な活動（手上げ方式による実行委員会活動）に挑戦し主体性の向上を図ることを計画化しました。そして若い人たちが参加しやすくなることを意図して、若い人の要望が多い青少年育成活動として夏休みの子ども向け寺子屋教室をはじめ、公民館で子どもから高齢者まで楽しめる企画を実行委員会にて検討いただき実験することをチャレンジ事業と位置づけ総会で提案・確認しました。次に若い有志の皆さんの議論から創った基本方針や計画の背景にある区長としての思い・意図するところについて触れたいと思います。人々の様々な違いを認め合い、相手の立場に寄り添いともに一緒に「暮らし」や「地域」をつくっていくことが大切だと考えます。そのためには、自分の利「利己」より他人の利「利他」を重んじる、競い合う「競争」より助け合う・協力し合う「共生」言わば、ディズニーランドのパレードの前にレジャーシートを敷いて場所取りが始まりますが、我が場所ではなく見ず知らずであっても小さな子どもやお年寄りに「どうぞどうぞ」と座って貰うとみんながパレードを楽しむことができる、そんな世界が創れると「いいなあ！」という思いから方針や計画をつくりました。

そして、歴史的経過の延長線上で物事を考えるのではなく、未来のありたい姿から今を見つめどうするかを考える発想が大切だと思います。日本は。超高齢社会で人口構造がピラミッド型から釣鐘型に逆転しました。若い人がお年寄りの面倒を見るのではなく高齢者が忙しい若い人たちを支援することで、子どもが生まれ育つ豊かな社会になるという発想もありではないかと思うのです。今までの常識と非常識を逆さまに考える発想の転換が求められる時代・社会となっています。だから自治会活動も転換・変革が求められているのだと思います。

最後に積小為大、小さなことが積み重なるとそれが偉大なことを成すことに繋がるのではないかな。そんな視点を持って、新しい小さなことを少しでも多く挑戦してみることが大事だと思って活動しています。

・活動のきっかけ

私たちは「古賀市 まちづくりに関する市民アンケート 報告書」を分析し、子育て世帯の不満を解消することが、満足のいく自治会運営につながると考えました。アンケートより、自治会で対応が可能な不満3つ①公園や公民館など、子どもの遊ぶ場所が少ない。②家族や友人など、相談できる人や支援してくれる人が近くにいない。③近所づきあいや地域活動があまりない。について着目しました。

このアンケートの結果から、子育て世帯は

①遊び場・遊ぶ機会の提供②近所・地域とのつながりを生む活動を求めていると仮定しました。

そこで先述のアンケート結果より①遊び場・遊ぶ機会を、地域内で提供する。②地域のだれもが歩いて参加しに来れる、みんながつながれるようにするため、公民館をメインの活動の場に設定しました。

・実際の活動

夏には「寺子屋活動」を行いました。寺子屋活動では、中学生ボランティアと有志スタッフによる学習の時間と、特技を持つ有志スタッフによる、松ぼっくり工作や錯視アート鑑賞などを楽しみました。累計参加人数は6日間で55名と盛況で、日を追うごとに参加人数が増えていったのも特徴でした。

秋には「お月見会」を企画しました。当日は生憎の雨天でしたが、子どもたちと一緒にお団子づくりをして、みんなで美味しく頂きました。また、宗像

から元教師の方を講師として招聘し、月や惑星、秋の星座などについて教えて頂きました。

冬には役員会と合同で「クリスマス会」を企画しました。寒い中、子ども達も区民の方々も元気よく会場に来ていただき、皆さん笑顔で過ごされていました。

どの活動でも、「公民館」という場の中で「近所・地域とのつながりを生む」ことが、一定達成されたのではないかと考えられます。

また、直近の活動予定として、「おはなししましょ」という会を1月25日に企画しています。年齢に関係なく、幼児から高齢者まで、久保西区に住まう区民の方が気軽に集まれる会にする予定です。

これからも、「自治会があってよかったなあ」と思えるような運営を目指します。

・今後の課題

今後の課題は、「お金の問題」です。現行の自治会費での運営では、自治会に加入しているか、未加入かが問題になり、参加費をどうするか、というのが悩みの種です。

どんな方にも平等に楽しんでもらう、むしろ未加入者の方にも地域とつながりを作ってもらうことを考えたときに、「市からの助成金等で、自治会から独立した活動ができる」というのが理想の一つです。古賀市民の為に、古賀市にもぜひご協力をお願いします。

【質疑応答】

（橋爪コーディネーター）

花鶴丘3丁目区の活動は、子どもだけでなく、保護者やお年寄りの方、外国人の方、いろんな世代が交じり合って参加していることが印象的でした。子どもたちが参加するために工夫していることや、感じている手応えを教えてください。

（花鶴丘3丁目区）

地域の高齢化が進んでおり、次の役員を探すのもなかなか大変なので、若い人になるべく参加してもらいたいという思いで、中学校に行ってイベントの手伝いをお願いしています。また、毎日ごみ拾いをする中で、少しずつ地域の子どもの名前も覚えてきました。

福祉会では、子どものいる家庭の情報を調査し、訪問するようにしています。

（橋爪コーディネーター）

子育てサロンちいさかーさの活動は、動画の様子からも、公民館が子どもたちにとって安心していられる居場所になっていることがよく伝わってきました。みんなの食堂では、大きくなって、スタッフとして戻ってくる子どももいると聞きました。質問が2点あります。

1点目が実際に参加している子どもたちの声をもう少し聞かせてください。

2点目が古賀東小子ども広場スタッフが、通学路スタンプラリーも新たに始めたと聞きました。自分たちの活動をする上で周りの人を巻き込んでいくために工夫していることを教えてください。

（ちいさかーさ）

1点目は、小学生や保護者が多いが、中には、中学生や高校生の子も来ていて、その日の出来事など、何気ないことをスタッフに話しかけてくれたり、お友達と話してくつろいだりしながらで過ごしています。

2点目は、日ごろから、周りの方との会話やつながりを大切にしています。

（橋爪コーディネーター）

久保西チャレンジ教室は、思い切って仕組みや、考え方を変えて広めていっていたことが参考になりました。また、住民の声を聞き、ニーズに合わせた活動をしていることが心に残りました。手上げ方式で実行委員会を立ち上げた手応えを教えてください。

（久保西チャレンジ教室）

規約の20条特別委員会に「本規約の委員会の他に役員会が必要と認めた時は特別委員会を設けることができる」とありますので、役員の人数を減らし、やってくれる人を手上げ方式で集めました。過去に地域活動の経験がある方などへの声掛けをしました。小さいところから勇気を出してやってみること、1人の100歩より100人の1歩を考えて、小さいことを頑張り続けることで実感が沸いてくると思います。

（橋爪コーディネーター）

実行委員会になぜ参加したのか、また参加した感想や手応えを教えてください。

（久保西チャレンジ教室）

参加のきっかけは、昨年度、組長会に参加したことです。

また、私自身、子どもが生まれて、娘にどんな世界を残したいかと考えました。自分自身は、子ども会や自治会、地域の温かいつながりの中で過ごしていましたが、今は地域とのつながりが希薄化しているので、いろんな方に参加していただき、地域を元気にできないかと思い、参加しました。子どもだけでなく、公民館がすべての人の居場所になってほしいと思います。

【会場からの質問・意見】

（参加者A）

ご参加の皆様、それぞれでいろんな役割をされていると思いますが、それをどう広げていくかが、今日参加された皆様の役割だと思います。楽しい活動が増えれば、古賀市はもっと盛り上がります。皆様のお力添えをお願いします。

（参加者B）

東小のPTCAをしています、とても勇気の出るいいお話を聞くことができました。私は賃貸マンションに住んでいますが、回覧板が各家庭に回ってくるわけではなく、お知らせが掲示板に貼ってあるだけです。自治会に入っているのですが、自治会情報や仕組み、どう関わっていけばいいかがよく分かっていません。皆様の地域では自治会がどのように関わっているか教えてください。

（花鶴丘3丁目区）

賃貸によっては、自治会に入らないというところもありました。地域の高齢化が激しいので、自治会加入の有無にかかわらず、地域の見守りをしていく必要があると思います。

（久保西チャレンジ教室）

久保西区は10組あります。回覧板は、組用とマンション用があります。ホームページを作るという意見も出ています。SNS活用が今後の課題です。

（ちいさかーさ）

ちいさかーさは、回覧板や、子育て情報誌、SNSで情報を発信しています。

（橋爪コーディネーター）

マンション自体が1つの組で回覧板も回っているところもあり、地域によって差があると感じました。

（参加者B）

はじめて、他の賃貸の情報が分かりました。賃貸でもつながることは大事なことでと思いました。

（橋爪コーディネーター）

地域でつながりたいと思っても、個人情報の問題は難しいので、過渡期に差し掛かっていると感じました。

（参加者C）

久保西区から参加しています。スタッフの継続していく力、立ち上げる力が必要だと思いますが、スタッフの入替や増やす努力を聞きたいと思います。

（ちいさかーさ）

私たちのスタッフは異年齢で、子育て中の若い方から、ご高齢の方もいらっしゃいます。年齢を理由に辞められる方もいます。

スタッフが少ないと、調理や子どもの見守りに支障が出てしまうので、周りの方へ積極的に「一緒にやろうよ」と声をかけています。

（花鶴丘3丁目区）

私たちのスタッフは15年前に手を挙げてくれて、そのメンバーがずっと続いています。若い人が入ってくることがなかなかないですが、できる時にできる人が手伝うようにしています。サロン活動を毎月しているので、お手伝いできそうな方に声をかけることで、徐々に増えています。

（久保西チャレンジ教室）

令和6年度に始めて手挙げ方式で始め、公募しています。組長も毎年変わるので、役員の継続がないのも難しいところです。チャレンジ教室に参加してもらって、小さいことを積み重ね、実感した方が輪を広げていってほしいと思います。

(久保西チャレンジ教室)

同世代の方にもスタッフとして入ってきてほしいと思います。寺子屋の活動については子ども同士の口コミで参加者が徐々に増えていきました。

(参加者D)

久保西区のチャレンジ教室のスタッフをさせていただいています。

スタッフとしての思いですが、子どもたちが公民館に集うこと自体が、推進していくことの難しさ、公民館へ足を運ぶ難しさを実感しています。

それを考えた時に、子どもたちだけでなく、時間はかかるかもしれませんが、大人や高齢者、久保西区全体を巻き込んで子どもたちを見ていくのがいいのではないかと。小さい時から親と一緒に公民館へ足を運んで、楽しかった思い出を作り、大きく育ってからも庄北・庄南区の「みんなの食堂」のように、公民館へ足を運んでいただけるようにしたいです。区全体で行事をやっていくことが長い目で見て、いいのではないかと思います。

(ちいさかーさ)

始めは、「子ども食堂」だったが、やっていくうちに、地域の方みんなが対象だと思い、どなたでも参加できるよう「みんなの食堂」に名称を変えた経緯もあります。

【まとめ】

(橋爪コーディネーター)

公民館を居場所にする上での課題は2つあります。

1つ目は突発的にしている活動をどのように日常化するか、また、古賀市内に広げていくか。

2つ目は、広報、お金、スタッフなど様々な問題をどう乗り越えていくか。

また、今はそれぞれの地区が各々自分たちの活動を発信しています。ですので、古賀市でそれをひとまとめにした広報などを作成し、一覧で見られ

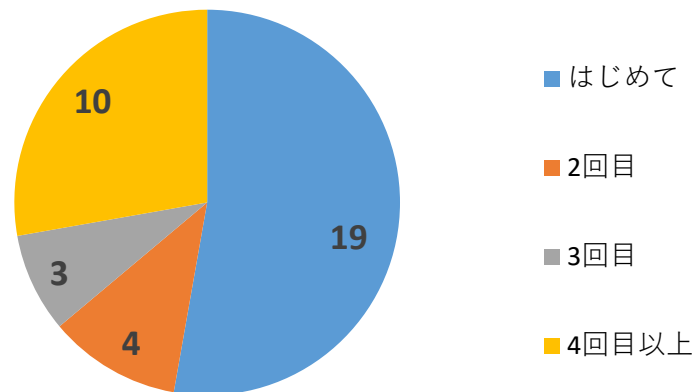
るようにしてみてもどうでしょうか。Instagramなどの活用も良いかもしれません。あるいは、手上げ方式で新たな活動を行った久保西区のような地域をモデル事業として古賀市が支援し発信することも良いかもしれません。

最後に、花鶴丘3丁目さんに取材に行ったとき、自分の教え子の中学生がスタッフとして参加していました。そこで、「どうして参加しているの？」と尋ねてみました。すると「いろいろな年齢の人とコミュニケーションがとれて楽しいから」という回答がありました。それぞれの地域が撒いた種は、確かに新芽となって芽吹いています。そのような芽が古賀市全体にもっと広がっていけばいいと思います。

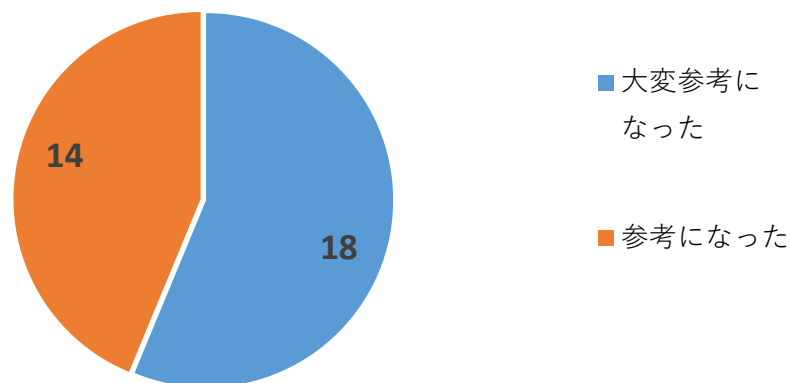
第9回生涯学習笑顔のつどいアンケート結果

参加者	63名
回答者	36名

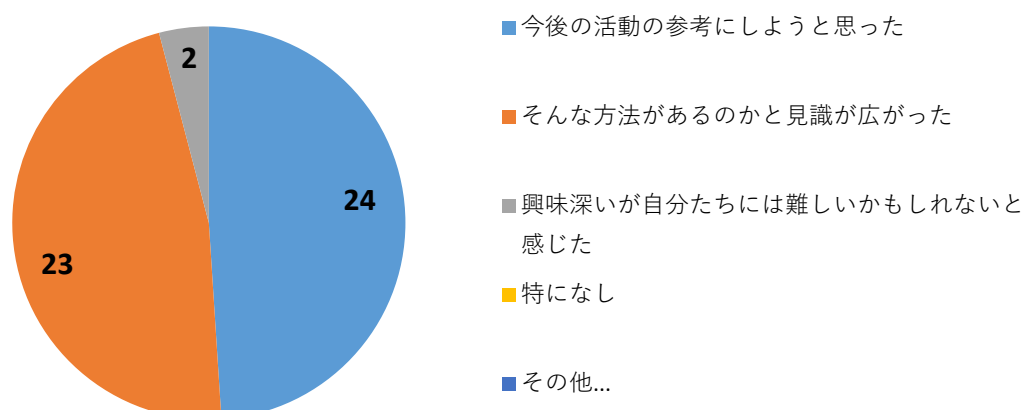
1. 今回は何回目の参加ですか



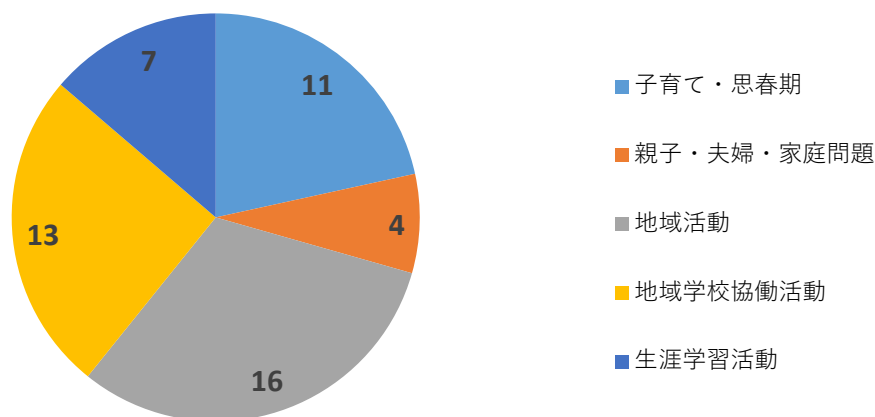
2. パネルディスカッションはいかがでしたか



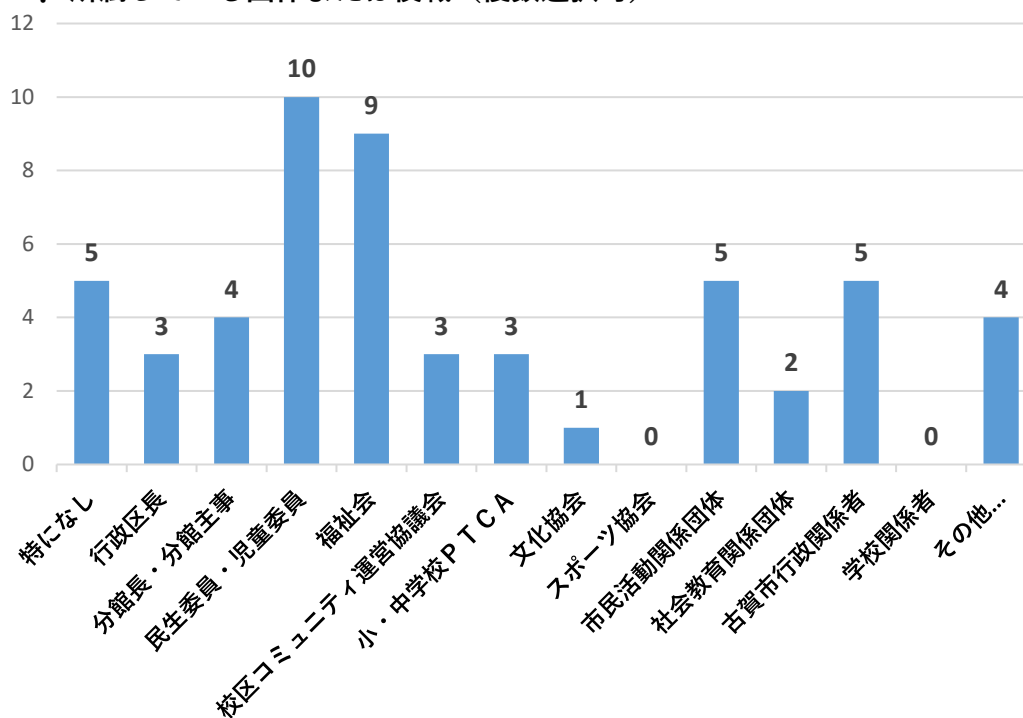
3. パネルディスカッションに参加された感想をお聞かせください。 (複数選択可)



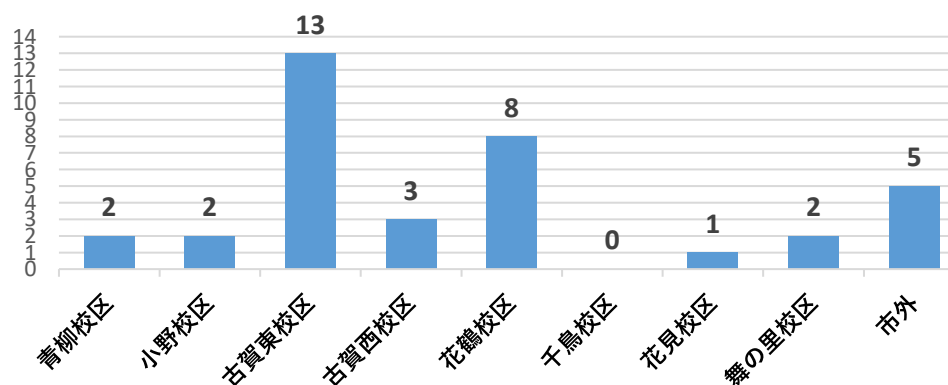
4. 今後取り扱ってほしいテーマをお聞かせください（複数選択可）



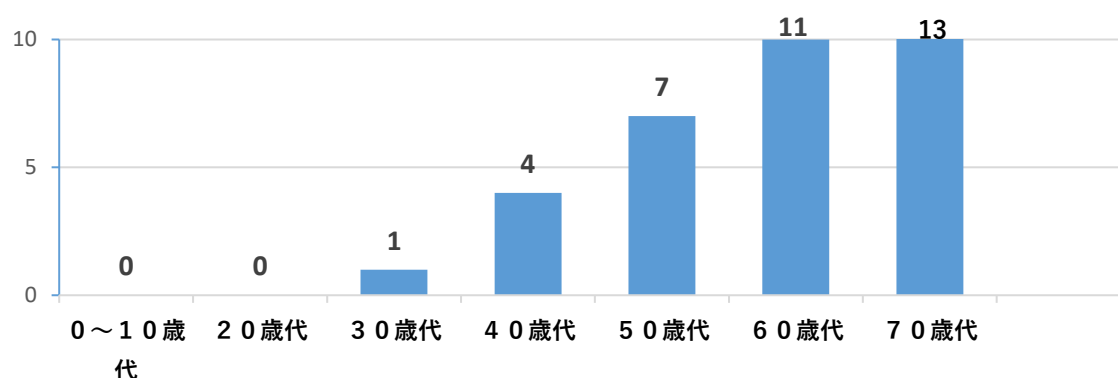
5. 所属している団体または役職（複数選択可）



6. お住いの小学校区



7. 年齢



9. その他ご意見等

1	ヒントを頂いた気がします。力まず、公民館利用。活性化・居場所に老若対象に拡げる方法を考えてみます。（区長・主事）いい企画・テーマ・進め方だったと思います。（発表時間短めで、議論や質疑の時間が多くて良かった）
2	自治会での素晴らしい取り組みを知ることができました。子どものため、次世代につなぐため、それぞれの方が考えるきっかけになった会になったと思います。古賀市全体に広がるよう支援できることがあれば力になりたいです。
3	パネルディスカッションもよかったが、グループワークで他の地域の実情を聞いたことはよかった。久保西チャレンジ教室は、若い人を巻き込む取り組みは今後の活動の参考になり力をもらった。
4	各活動が参考にさせてもらえるアイデアいっぱいでした。まねしたい所、できる所、やってみたいこと。地元で何かしたい気持ちが膨らみました。まずはやってみようと思いますが、仲間がいたほうがいいので、仲間（同志、同じ思い）をつなげることをまずやってみます。ありがとうございます。
5	どこも同じ悩みを持っていることが分かりました。スタッフも参加者もどちらも増やすには口コミが一番。子育て世代は、共働きで気持ちに余裕がありません。一番参加してほしい世代が参加しやすい様になってほしいです。
6	自治会そのものの在り方やそこでの子どもとの関わり方。いろいろな立場の方から聞くことができました。子どもだけでなくみんなの居場所を作ることが大切だと思いました。
7	公民館を活用するために常時公民館が開いていることが最低条件。区単位では無理。行政として各公民館にスタッフを常駐させるなどの補助があれば・・・リモートでも仕事が可能であると思うので。
8	公民館を常時開放し、児童から年配者までいつでも立ち寄ることができる居場所づくりが大切。課題は誰が鍵を開け、その場にいることができるか。自治会の協力も。公民館にいる人（常駐者）へ少額でもいいので市で補助することはできないのでしょうか。

9	公民館をどうもっとオープンに利用できるようになれるか。難しいけれども、利用者が多くなるように。
10	公民館の鍵のことを話されましたが、開放する責任をどうとる、どう考えるを解決しないと思っていただけて開け放すのは難しいと思う。
11	久保西区の区長さんのお話に大変感銘を受けました。自治会活動において課題を明確にとらえ、新たな取組にチャレンジすることは、非常に難しいことだと思いますが、それを実践されていることはすごいことだと思います。このような取組みが、今後の自治会の1つのモデルになるのではないかと思います。
12	久保西区の取り組み、すばらしいと思いました。手上げ方式の地域への参画、「1人の100歩より100人の1歩」地域の一員として賛同します。私の区もそうなればと・・・と考えます。また、地域での活動をスタートに際し、ありがたい会となりました。これからも、地域活動の報告等聞かせて頂く機会があれば参加させて頂きたいです。
13	役員の負担を減らすことにチャレンジされた久保西の活動が特に心に残りました。方針を区民の皆さんに示されたことが大きかったと思いました。
14	新築して入居されるが組に入らない。又は老人家庭でイベントに参加されない。また、いつの間にか空き家になっているなどが見受けられる。せっかく古賀市に住まわれるなら、一度公民館で遊んだりお話してもらえたら嬉しいです。
15	2組となるチャレンジ事業をこれからどう継続していくかが目標です。
16	できるだけ地域のお手伝いをしようと思って参加しました。
17	ありがとうございました。ご活躍を期待します。
18	古賀市内、他地域の情報が知れてよかったです。
19	子どもたちをどうやって集めるか、広報や回覧だけでなく日頃の声掛けの大切さをおしえてもらいました。
20	熱意のある活動を聞かせて頂いて大変参考になりました。
21	今日の資料を古賀市のHPにUPできませんか？
22	パネルディスカッションの説明の資料や内容をもう少し詳しくして欲しかった。
23	3団体のいいところ、課題が分かってよかったです。笑顔のつどいの参加者が少ないと思い、PRの方法の課題。多くの人に聞いてほしいと思いました。